



和田っ子通信

令和5年度 No. 4
福井市和田小学校だより
発行日 令和5年 7月 3日(月)
〒918-8238 福井市和田 1-2-1
TEL:22-8817 FAX:22-6121

梅雨明け間近 まぶしいほどの夏へ

今年度が始まって、4ヶ月目に入りました。そして、あとしばらくで児童が楽しみにしている夏休みを迎えます。4月から拝見していますと、児童は個々に努力を重ね、日々成長していると感じます。

7月6、7日には、すでにご案内のとおり保護者懇談会を行います。この機会を生かして、学校での様子をお伝えしたり、家庭での様子を伺ったりする中で、お子さんのさらなる成長に向けたお話ができればと思います。

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、学校もふだんの賑わいを取り戻しつつありますが、一方で第9波の流行が懸念されていることから、今後も基本的な感染対策(手洗い・咳エチケット・換気等)を怠らず、感染防止に努めたいと思います。ご家庭や地域でもご協力をお願いします。
(文責:勝木)



ある日の出来事から

海の生きものとふれ合いました

～1年生 「水族館見学」～

5月25日、1年生が、松島水族館へ校外学習に出かけました。館内では、まずイルカショーを見学しました。イルカが何度もジャンプし、水しぶきを上げる様子を見て、拍手や歓声で応援していました。その後、さまざまな魚や水辺の生きものを観察したり、エイやタコ、磯に棲むヒトデやヤドカリ、ナマコなどに触れたりしました。天候にも恵まれ、気持ちよく学習することができました。児童の笑顔がたくさんみることができました。



すべては和田の児童のために、みんなで！

～PTA諸活動、開始！～

6月6日、ベルマーク部の皆さんが、ベルマークを仕分けする入れ物や児童に分ける回収袋を作ってもらっていました。ベルマーク運動では、ベルマークの合計点数から生み出された資金で学校の設備や教材をそろえています。今後、行われる点数の仕分け等大変地道な作業です。ありがとうございます。

また、6月11日、小雨が降る中、PTA資源回収が行われました。和田地区からたくさんの古紙・雑誌類の資源ごみや、ベルマーク、使用済みプリンターインクなどが集められました。地域の皆様、ご協力をありがとうございました。

その他あいさつ当番・安全パトロールや親子のつどい、広報誌発行、リサイクル品回収などの諸活動が始まっています。物心ともに児童に還元されていくPTA活動。保護者の皆様のお力添えに心から感謝申し上げます。



仲間と寝食を共にして、つながる絆・・・

～5年生「宿泊体験学習」～

6月15、16日、5年生が宿泊学習のため、大野方面に出かけました。出発式では、あいさつとして児童が宿泊学習にける思いを話しました。1日目は、大野市内を班別行動したり、イトヨの里を見学したりしました。その後、入所した宿舎の奥越高原青少年自然の家では、夜のイベント「ふれあいタイム・ザ・宿泊」で、〇×クイズや「じゃんけん列車」等のゲーム、サプライズな出し物で盛り上がりしました。

2日目を迎えた児童は、午前中、野外炊さんでカレーライスに挑戦しました。調理係はカレーを作り、ごはん係は飯ごうに米を準備したり、かまど係は火の調整をしたりして、昼食を作りました。みんなで力を合わせて、作って食べたカレーの味は最高だったのではないのでしょうか。午後は、福井県自然保護センターで、しおりを作ったりプラネタリウムをみたりしました。

いろいろな活動に取り組んだ2日間、どんな思い出ができたでしょうか。



わたしたちの住みよいくらしのために・・・ ～4年生「社会科施設見学」～

6月19日、4年生が、社会科学習の一環で福井市の東山クリーンセンターと九頭竜浄水場に出かけました。クリーンセンターでは、職員の方から、福井市のごみの状況や分別の大切さを聞いたり、施設の様子を見学したりしました。また、九頭竜浄水場では、九頭竜川の水がいくつかの沈殿池を通してきれいになる様子を観察しました。また、井戸からくみ出される水にふれ、きれいさと冷たさが印象に残ったようです。

これらの施設は、私たちの生活に欠かすことのできない大切なものであると改めて感じました。



心とからだに響け！歌声、ハ～モニ～🎵 ～6年生「小学校連合音楽会」～

6月20日、5月からコツコツ練習を重ねてきた6年生が、本番の日を迎えました。開演前、児童はとてもリラックスしていたように思えました。和田小学校の「クラIPPINGラプソディー第1番」「青空に深呼吸」は、7番目の登場でした。児童は、伴奏や指揮にあわせてゆらぎながら、心地よさそうに声を重ねていました。その他の小学校の合唱にもさまざまな趣向が凝らされており、楽しいひとときを過ごすことができました。6年生の皆さん、お疲れ様でした。



地域に棲む生きものを探しに・・・

～2年生「生きもの探検」～

6月21日、2年生が、地域にある田んぼの用水路に出かけ、そこに生息する生きものを探しました。児童は、ザリガニのほか、オタマジャクシやドジョウ、タニシ、メダカなどさまざまな生きものを見つけました。はじめは、生きものを恐がっていた児童も活動の終わり頃には平気に捕まえていました。身近なところにたくさんの生きものが棲んでいることに気付いた児童、自然が豊かな自分たちの地域を誇りに感じてくれるといいです。

お手伝いくださった地域の皆様、ありがとうございました。



あかるくいつでもさきにつたわるように ～あいさつ運動推進協力校～

今年度から2年間、和田小学校は、「あいさつ運動推進協力校」として依頼を受けました。コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、生活委員会でも、児童があいさつを呼びかけるようになりました。もともと「二言あいさつ」に取り組んできた経緯もあり、校内でのあいさつには定評がある本校児童ですが、「あかるい、いつでも誰とでも、先に自分から、伝える」あいさつを目標に取り組んでいきたいと思ひます。



校長室から

「仲間がいれば、可能性は無限大」

WHOの最新報告では、コロナ禍において「不安障害」「対人不安」を感じている人が増えているそうです。人間は、本来「仲間からの孤立」に敏感で、所属欲求が強いとされていますが、孤立を長時間感じていると、他者に対する不安や恐怖を感じる脳活動が高くなるのだそうです。新しく人とつながりをつくるには、誰でも一定の不安のハードルを、「人とふれ合う喜びの力」で乗り越える必要がありますが、長時間会わないことで、不安や恐怖が強くなり、ハードルが高くなってしまいます。

会話するときに活発に働く脳のある部分の血流量の変化を調べると、通常ばらばらに変化している血流量が、一緒に会話して盛り上がり、お互いの感情が共有できると、連動して似たような変化をすることが分かっています(脳活動の同期現象)。人が喜びを感じるコミュニケーションには、「感情のコミュニケーション」が重要な要素なのです。アメリカでは、この「感情のコミュニケーション」を増やして、脳の喜びを強め、新しく人と関わるハードルを低くする方法として、「SEL(社会感情学習)導入を進めています。

本校では、今年度からポジティブ教育プログラム(福井県版SEL)に取り組んでいます。ソーシャルスキルを学んだり、集団ゲームを楽しんだりしながら、お互いの感情の共有・共感力を高めていきたいと思ひます。そのためには、やはり笑顔が大きなポイントであることはいふまでもありません。

